

第59回全国公立学校教頭会研究大会埼玉大会 報告

青森市立造道中学校 高村 浩樹

大会主題 『豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育』

(第11期初年度全国統一研修主題)

開催期日 平成29年度8月2日(水)～4日(金)

開催地 埼玉県さいたま市

会場 全体会 さいたまスーパーアリーナ 分科会 大宮ソニックシティ、パレスホテル大宮、さいたまスーパーアリーナ、ホテルブリランテ武蔵野、ロイヤルパインズホテル

日程 8月2日(水) 郷土文化紹介、開会行事、シンポジウム

8月3日(木) 分科会「特別分科会I」参加

8月4日(金) 研究のまとめ、記念講演、閉会行事



◆第1日目：全体会シンポジウム

テーマ「きめ細かで質の高い教育を推進し未来へ飛躍するグローバルな人材をめざして」

コーディネーター 杉田 洋 國學院大學人間開発学部初等科教育学科教授

シンポジスト 勝野 正章 東京大学大学院教育学研究科教授

小島 奈津子 フリーアナウンサー

佐々木 則夫 元サッカー日本女子代表監督、十文字学園大学副学長

- ・勝野氏：教師自身がクリエイティブでなければならない。
ゆとりが必要→新聞を読む時間があるか。地域のことを考える余裕があるか。
- ・小島氏：外国語よりも母国語を大事する。人の話をいかに聞けるか。
- ・佐々木氏：自分が何をやりたいのか、意欲と感性が大事。
- ・杉田氏：差異を受け入れる、受け止める。そのためには、差異を知ることが大事、現状・状態を知る（性マイノリティ、知的障がい、強い子・弱い子）認める。

◆第2日目：課題別各分科会（まとめ別紙参照）

○特別課題I テーマ「グローバル社会を生き抜く児童生徒の育成を目指して」

講師 都留文科大学文学部国際教育学科講師 山辺恵理子氏

【分科会の進め方】

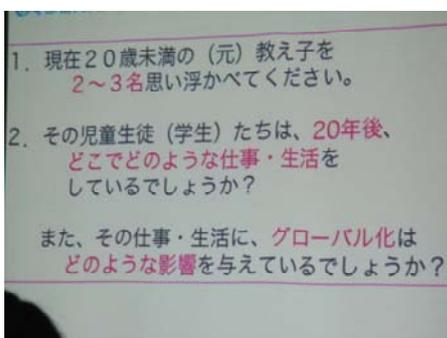
1 開会、紹介、趣旨説明等 2 講義 3 演習 4 代表発表 5 指導助言

【趣旨説明】

グローバル人材とは、どのような人材なのか。またグローバル社会を生き抜くために必要な資質・能力とはどのようなものなのか。グローバル社会を生き抜くためには必要な資質・能力を育てる教師の視点や必要な支援とはどんなことか。副校長・教頭としてグローバルな人材の育成にどう関わればよいのか。

【講義・演習・協議】

- ・ IB 教育は、学習者が一人で、または他の人々と協力して生涯学び続けるための力を引き出す。
- ・ 探究、行動、振り返りを通じて、「学び合う者たちのコミュニティー」がグローバルな課題に取り組めるよう準備する。
- ・ 特に振り返り（リフレクション）が子どもも教師も大事である。



【指導・助言】

- ・ グローバルとインターナショナルの差異（ひとつにつながる・違いを尊重する）。
- ・ 仲間同士で自己肯定感をもつようにする。ポジティブに。
- ・ 自分たちの学校の強みを生かす！
- ・ 人生の醍醐味は、目標を達成することにあるわけではない。障害を乗り越えることにある。

◆第3日目：記念講演 講師 梶田 隆章 東京大学特別荣誉教授 宇宙線研究所長

2015 ノーベル物理学賞（ニュートリノ振動の発見）

演題『未来へ飛躍するグローバルな人材の育成』

- ・ チームワークでの研究が大事。
- ・ 定説を疑うこと。
- ・ 予想されなかった欠損の発見が科学研究の偶然の面白さ。
- ・ 明日に役立つだけの研究が研究ではない。
- ・ 10年後、20年後に役立つ研究があってもよい。
- ・ グローバルな視点に立った人材の育成が求められている。
- ・ 子どもの将来を切り拓くための教育を。

